

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



がく ぶち
額 縁

よし だ よし はる
吉 田 吉 治

(平成8年度作品)

16ミリ映画・ビデオ
カラー・20分

プロフィール

住所、荒川区町屋6-31-15
大正14年(1925)、東京都生れ。

平成7年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

吉田さんの父・高之助氏は4~5人の職人さんを抱え、仏壇や写真の暗箱などを作る指物師であった。吉田さんは昭和14年(1939)、根津の飯塚達一氏に師事し、漆塗りの修業を積む。飯塚漆工所では華道、茶道の道具類の他、額縁を多く手掛け、それが吉田さんにとって額縁づくりの道を選ぶきっかけとなったという。昭和22年に独立し、額縁づくりは独学で修得した。創業当初は兄弟3人で仕事をしていたが、現在は10数名の従業員を抱え、洋装を中心に和額、デザイン額など時代に合った額縁作りに取り組んでいる。

昭和57年、東京額縁が都の伝統工芸品に指定されて以後、吉田さんは講習会を開くなど、後継者の育成に努め、業界の発展に力を注いでいる。

現在、東京額縁工業協同組合理事長、全国額縁組合連合会副会長(製造部会部長)などを兼任している。

企 画 東京都荒川区教育委員会・制作 株式会社 文化工房
著 作

用具・工具

木工用具一式、刷毛（筋違刷毛、人形刷毛、漆刷毛）、胡粉引き地（胡粉を膠で溶いたもの）、ヘラ、粘土（胡粉に膠を混ぜたもの）、砥石、水ペーパー、ラックニス、上質の和紙、カシュー、金箔、絵具、木型など。



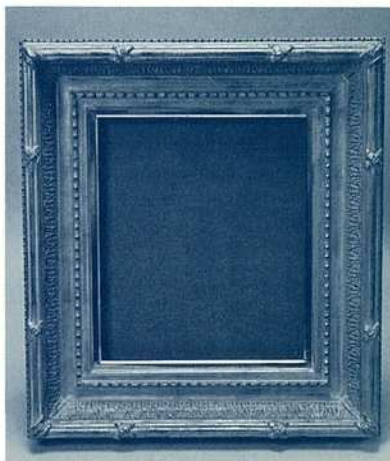
(用具・工具)

工程 —— 洋額の場合 ——

- (1) 【デザインの考案】
 - ・デザインを基に木工職人と打ち合わせし、【木取り】、【面取り加工】、木枠の【組立て】を依頼する。
- (2) 【下地塗り】
 - ・木地全体に胡粉引き地を人形刷毛で塗る。
- (3) 【飾り型づくり】
 - ・木型に粘土を詰め、型をぬく（木型は木彫師に依頼する）。
- (4) 【飾り型はり】
 - ・天日で乾燥させた飾り型に胡粉引き地を塗り、木地に貼り付ける。
 - ・貼り付け終了後、胡粉引き地を塗り、下地を仕上げる。
- (5) 【下地研ぎ】
 - ・下地塗りを十分に乾燥させ、下地塗りの表面を滑らかにするため、砥石や水ペーパーで磨き上げる。
- (6) 【ラックニス塗り】
 - ・箔下の色に合わせてラックニスを塗る（今回は赤）。
 - ・箔下塗りの塗料が下地に吸い込まれないように、色ムラを防ぐ。
- (7) 【箔下塗り】
 - ・カシューを上質の和紙で濾過し、漆刷毛で全体に塗る。
 - ・埃よけのため、ムロに入れて乾燥させる。
- (8) 【箔押し】
 - ・金箔を全体にまんべんなく貼り付け、余分な金箔を拭き払いながら押さえていく。
- (9) 【古美つけ】
 - ・絵具を塗っては拭き、粉をはたくなどして、落ち着いたのある色合いや渋味をだし、仕上げる。



(箔下塗り)



(完成品)

この記録〈ビデオテープ〉は荒川区教育委員会社会教育課及び、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16³映画〉は社会教育課及び、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸出期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16³映画〉の貸出には団体登録と16³映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

〈問い合わせ先〉

荒川区教育委員会社会教育課・・・3802-3111（内線3358）

荒川図書館・・・3891-4349

町屋図書館・・・3892-9821

尾久図書館・・・3800-5821

日暮里図書館・・・3803-1645

南千住図書館・・・3807-7114